NPO法人 コレクティブハウジング社

2009年度 年次報告書

CHC annual report 2009

Collective Housing Corporation

はじめに・・・
～ＮＰＯ法人コレクティブハウジング社（ＣＨＣ）の理念～

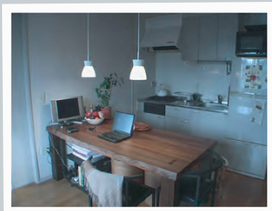
わたしたちＣＨＣは

人と人が関わり、育む豊かさを
住まい手自身が築き上げることに
日常の暮らしの豊かさがある、
と考えます。

そして、
このような暮らしを実現するしくみと
空間をもつ住まいを
コレクティブハウジングとよび、
その実現を推進しています。

急速な社会環境の変化の中、
物質的豊かさの追求や個人や小さな家族の努力だけでは
安心安全で豊かな人間関係のある生活環境を守ることはできない、と
多くの人々が感じはじめています。

ＣＨＣは、
「共に住む、共に生きる、共に創る」をテーマとする
コレクティブハウジングを推進することにより
相互扶助機能が低下した生活環境を再生し
多様な暮らし方・生き方を受け止められる住環境づくりや、
安心安全なまちづくりを行うことを目的として設立されました。



コレクティブハウジングは、
自立した個人の自由やプライバシーを守りながら
生活の一部を共同化したり、空間や設備を共用化する事により
個人や小さな家族ではできない経済的で合理的な生活と
物理的・精神的に豊かで安らぎと楽しみのある住環境、
居住者自身の主体的取り組みによってつくり育てていく暮らし方です。
ゆるやかな助け合いの中で、一人でも、歳を重ねても
すべての人がいきいきと自分らしい暮らしができる事をめざしています。

わたしたちは、
今の住宅供給では満たされない
多様な居住形態の要望への細かな対応を推進するとともに
コミュニティの抱える多くの問題解決に可能性を持つコレクティブハウジングを
広く啓発普及する活動をはじめ
コレクティブハウジングの実現とその運営を支援していきます。

ごあいさつ

組織としての「コレクティブ力」

2009年度のテーマは「再・はじまりの年～組織の「コレクティブ力」を高め、前へ～」としておりました。NPO法人の設立から9年が過ぎ10年目を迎えるひとつの節目にあたり、これから新しいステージに入っていく初年度である、との捉え方ゆえです。

その1年を終え、達成事項としてまず挙げたいのは、取り組み推進に向けての顔ぶれの充実です。
2010年度を企画する事業プランニングのプロセスには、15名ほどのメンバーが参加してくれました。推進の担い手が理事メンバーだけという状況が、少しずつ改善されていくものと思います。

また、コレクティブハウス聖蹟の立ち上がりと新領域への挑戦も、大きな達成事項です。
コレクティブハウス聖蹟は、2009年4月にオープンし、1年が経過しました。もちろんこの間、さまざまな課題も持ち上がりましたが、ＣＨＣの第4のプロジェクトとして、これまでのプロジェクトと同様、世界に誇れるひとつのコミュニティができつつあると思います。
新領域への挑戦としては、団地コミュニティ再生支援（左近山団地）、中山間地の暮らしづくり支援（道志村）等、これまでNPOとして蓄積してきた コレクティブなコミュニティをつくる方法論が、実は社会のさまざまなフィールドで活用可能なものであることを、内外にわかりやすく表現できる機会となりました。

もちろん課題もあります。安定的な収益基盤の確立や、事務局長への業務負荷集中の改善など。こうしたテーマには2010年度以降も継続して取り組んでまいります。

社会の閉塞感もある中、これまでになく、世の中のコレクティブハウジング/コレクティブハウジング社への期待を感じてもおります。こうした機会をどう結果へつなげていくか、大変ながらも楽しみな挑戦が続きます。

いつもいつも本当にありがとうございます。そしてどうかこれからも。

みなさまとご一緒に、コレクティブに力を合わせ、
進んでまいりたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

ＣＨＣ代表理事
影山知明

この年次報告書でお伝えしたいこと

この年次報告書の作成にあたっては、ご参加/ご協力いただいている皆さまに2009年度の成果をご報告し、感謝申し上げると同時に、ＣＨＣへの参加をご検討いただく皆さまにとっても、活動の理念、内容、成果を具体的にわかりやすくお伝えすることを目指しました。お急ぎの方は、2009プロジェクト一覧（P10）を、お時間のある方はより詳細な報告等もご一読いただけましたら幸いです。

報告対象期間：2009年度（2009年5月～2010年4月）

もくじ

はじめに …… 1
ごあいさつ/この年次報告書でお伝えしたいこと …… 2
団体概要 …… 3
2009プロジェクトレポート
　コレクティブハウス聖蹟 …… 5
　新領域への挑戦 …… 7
　　団地コミュニティ再生支援/中山間地域の暮らしづくり支援
　ネットワークセミナー …… 8
　松陰コモンズ …… 9
2009プロジェクト一覧 …… 10
ＣＨＣへのメッセージ …… 11
メディアでの紹介/講師派遣 …… 12
　/ご支援･ご協力いただいた団体
会計報告 …… 13
会員制度のご案内 …… 14

団体概要

組織概要

団体名・・　特定非営利活動法人コレクティブハウジング社（略称：CHC）
設立年月・　2000年11月（2001年2月に東京都よりNPO法人認証）
事務所所在地・　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-21
・　・　ちよだプラットフォームスクウェア1175
連絡先・・　E-mail：info@chc.or.jp
・　・　TEL：03-5281-2310/FAX：03-6805-0245
ホームページ・　http://www.chc.or.jp

役員（2009年度）・代表理事：影山知明
・　・　副代表理事：姫野亜紀
・　・　理事：狩野三枝、高田芙美子（事務局長）、宮前眞理子
・　・　監事：東登、渡邊喜代美

これまでの歩み

2000.11・　研究グループALCC（正式名称 Alernative Living & Challenging City）を母体として、団体設立

2001.02・　NPO法人認証

2002.10・　松陰コモンズプロジェクト　開始
・　150年の歴史を持つ古民家を舞台に、CHCと7人の居住者による
・　あたらしい暮らし方（シェアード型コレクティブ居住）と
・　その事業の可能性にチャレンジしたプロジェクト

2003.06・　コレクティブハウスかんかん森　オープン
・　CHCが初めて取り組んだコレクティブハウス。12階建ビルの2、3階部分を
・　使用した28戸の構成

2007.02・　コレクティブハウス巣鴨（スガモフラット）　オープン
・　14階建ビルの2階に位置する戸数11戸の小規模なコレクティブハウス
・　以前は豊島区の児童館であったフロアを
・　創り変えること（コンバージョン）で誕生した

2007.07・　ネットワークセミナー開始

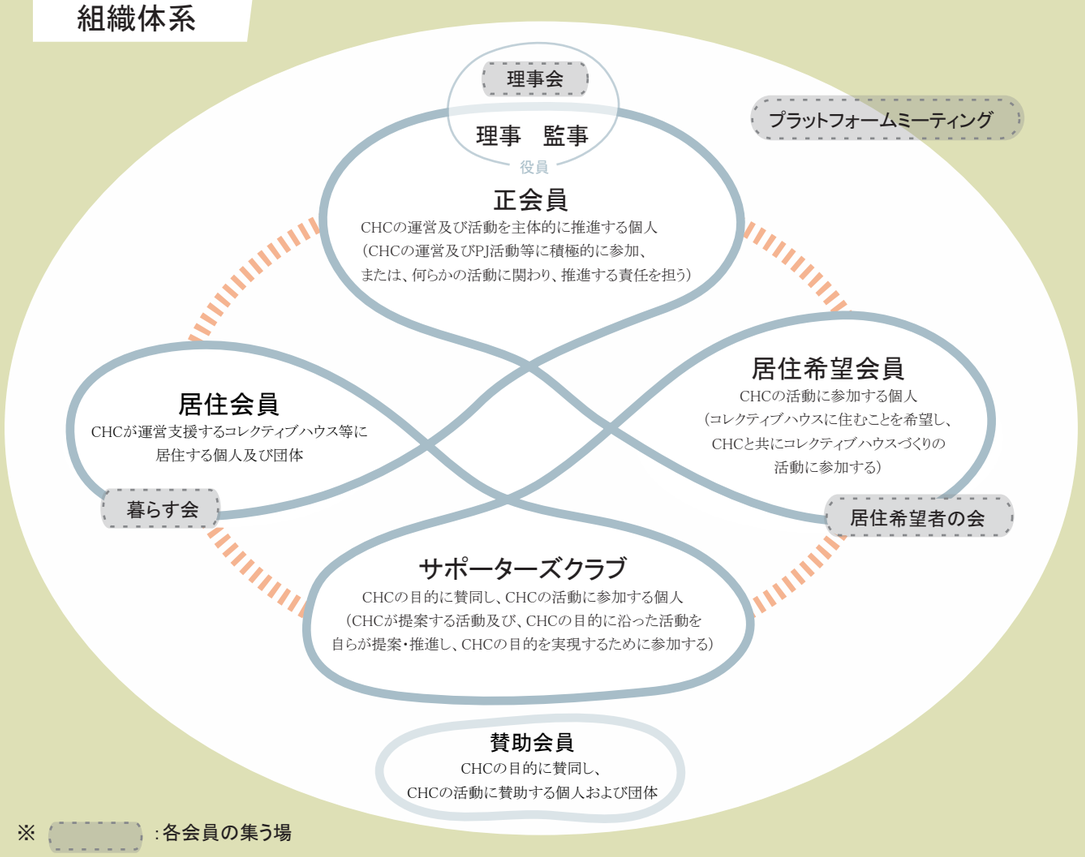
2008.10・　プラットフォームミーティング（会員向け交流の場）開始

2009.04・　コレクティブハウス聖蹟　オープン
・　CHC初のコレクティブハウス単独での建物で、20戸の住戸と
・　屋上菜園などの豊かなコモンスペースをもつ。

2009.07　団地コミュニティ再生支援（横浜市左近山団地）開始

2009.09　中山間地域の暮らしづくり支援（山梨県道志村）開始

組織体系



※　　：各会員の集う場

会員数推移

・　・　・	2007年度	2008年度	2009年度
正会員・	29	21	28
居住会員			
個人会員(*1)	22(*3)	22(*3)	35(*4)
団体会員(*2)・	1	1	1
サポーターズクラブ	116	133	120
居住希望会員	49	72	50(*5)
合計	217	249	234

*1：正会員である居住者は、居住会員のカウントには入っていません。
*2：かんかん森居住者は一括して団体会員として登録しています。個人会員には含まれません。
*3：スガモフラットと松陰コモンズの居住者がカウントされています。
*4：2009年度末に松陰コモンズが終了したため、コレクティブハウス聖蹟とスガモフラットの居住者がカウントされています。
*5：コレクティブハウス聖蹟入居に伴い、2008年度の居住希望会員の一部が居住会員に移りました。

プロジェクト リポート①

コレクティブハウス聖蹟　2009年４月にオープン

ＣＨＣ初の郊外型・コレクティブハウス単独の建物である「コレクティブハウス聖蹟」がついにオープンしました。
個人事業主さんの思いからスタートしたハウスづくり。居住者は計画段階から、自分たちの暮らしづくりを積み重ねています。

【物件概要】
所在地:東京都多摩市関戸
規模:地下1階、地上2階建
　　約1,100㎡(駐車場を除く)
構造:鉄筋コンクリート造
竣工:2009年4月
住戸数:20戸
住戸タイプ:1R、2K(シェア)、1LDK、2LDK
住戸面積:25㎡～50㎡
供用空間:キッチン、ダイニング、リビング、ランドリー、ロフト(ゲストルーム兼用)、地上庭、屋上菜園
付帯施設:トランクルーム12ヶ、駐車場8台

【事業概要】
事業主:個人
企画/基本設計/事業コーディネート:
特定非営利活動法人コレクティブハウジング社
設計監理:篠田弘子設計室・鞘　篠田弘子
施工:日本建設株式会社

コレクティブハウス聖蹟は、既存アパートの建て替えに際して、地域との共生を願って、地元の地主さんがコレクティブハウジングを選択されたことから始まりました。

CHCとしては、初めての郊外でのコレクティブハウスということもあり、事業化に先立ち、地元でのセミナーやまち歩きなどを行い、はたしてこの立地でどんな方が居住希望されるのか、手探りの状態が続きました。

2007年6月から参加者を募集し、居住希望者の参加のもと、CHCが事業コーディネートを行い、企画提案、事業化支援、居住者希望者支援、設計等、各方面の専門家と協力して事業を推進してまいりました。折りしも、建築基準法改正のまっただ中、多摩市の街づくり条例も始まり、役所の手続に明け暮れる日々が続きました。

そして2009年4月、コレクティブハウス聖蹟が誕生しました。

今後は、居住者の自主管理による賃貸コレクティブハウスとして、CHCは居住者組合の自主運営を支援すると共に、事業主さんへのコレクティブハウジング事業の運営支援を行っていきたいと思います。

ハウスづくりのプロセス

ハウスづくりの段階では、居住希望者はワークショップに参加し、建物のプランニングや自分たちが望む暮らしについて話し合いながら、お互いの信頼関係を築いていきます。

このプロセスは事業のスケジュールとリンクするため、CHCが主導し、コレクティブハウス聖蹟でも、入居まで30回ほどのワークショップを行いました。

一方、CHCが主導するワークショップとは別に、居住希望者は居住者組合の準備会をつくり、ワークショップと平行して定例会議などを重ねながら、入居前には居住者組合として自立します。

コレクティブハウス聖蹟での暮らしを少しのぞかせていただきました

コレクティブハウス聖蹟を外側から。

業務用コンビオーブンの講習会中。
見て確認する人あり、メモをとる人あり。

子どもたちと一緒に、ステンドグラスを
つくっています。完成がたのしみですね。

多世代交流の最中です。

屋上庭園も自分たちで管理します。
これは芝を張っているところ。

そろそろご飯の準備を。
今日のコモンミールは何でしょうか。

コレクティブハウスでは、一人ひとりの暮らしとコモンの快適性のために、何かあればとにかく話し合う、正しい回答は一つではない、まずはやってみてうまく行かなかったらまた話し合ってやり方を変えよう、自分は賛成ではなくても決まった経緯や理由を共有して納得し先に進めてみる、というやり方をすることで、誰もが自分の役割を果たして折り合いを付けながら共同で運営して行くことができます。

子どものいる暮らし

コレクティブハウス聖蹟には2才～17才までの子どもが7人います。子どもにはのびのびさせてあげたい、でも、いつの間にかダメダメってばかり言っていない？私たち…

そんなことで、暮らしが始まってからも気になることを話し合いのテーブルに乗せて、ワークショップで話し合いを続けてきました。そして、入居して初めての組合の総会を迎え、キッズグループとワークショップグループの協働で、ステキな子どもへのメッセージが提案されました。子どもへのメッセージを大人で共有しようという考えでつくられた愛情たっぷりの文章は、子ども会議で子どもたちに伝えられました。

（子どもたちへのメッセージは、クーヨン2010年9月号 P38に掲載されています。）

コミュニティは生きもの

2010年3月、入居して初めての居住者組合の総会があり、会議は実に14時間に及びました。準備段階から考えれば、体力も気力も一杯いっぱいでしょうが、コミュニティは生きているため、これで完成ということがありません。楽しいときもあれば、問題が起こることもあるでしょう。しかし、それを乗り越えてはじめて得られる何物にも代え難い関係が育まれることも事実です。2年目のコレクティブハウス聖蹟、どんな物語が紡がれるのか楽しみです。

（プロジェクトマネージャー　狩野三枝）

居住者参加のプロセス

2006.08　地元にてセミナー開催
　　10　事業企画開始
　　11　第1回まち歩き
2007.03　プレ説明会開催
　　04　第２回まち歩き/事業化決定
　　05　参加者募集開始
　　説明会開催
　　06～つくろうWS開始
　　ＣＨＣと事業主の契約/基本設計開始
　　08～豊かな暮らしづくりWS1開始
　　11～役所諸手続き開始
　　12～組合準備会ミーティング開始
2008.01　豊かな暮らしづくりWS2開始
　　04　組合準備会設立
　　05　確認申請提出
　　06～暮らしの運営WS1開始
　　仲間集めキャンペーン実施
　　08　工事着工
　　09　居住者組合設立
　　暮らしの運営WS2開始
　　10～事業主への入居申込開始
　　組合への出資金の一部集金
　　11　CHCと組合のコーディネート契約
2009.01　上棟
　　02　家具の最終選定及び購入準備
　　03　居住者組合第１回総会
　　04　竣工・引渡し/賃貸借契約・入居

プロジェクトリポート②

新領域への挑戦

これまでNPOとして蓄積してきたコレクティブなコミュニティをつくる方法論が、実は社会の様々なフィールドでも活用できるものであるという可能性が、新しいプロジェクトへ挑戦する中で少しずつ見えてきました。

団地コミュニティ再生支援プロジェクト
（横浜市旭区　左近山団地）

横浜市旭区の左近山団地は築40年、総戸数6,000戸、高齢化率が32%になるなど、高齢化、シングル化が進んでいます。ここを舞台に、地域コミュニティ再生を目指し、左近山団地でコミュニティカフェを運営している「地域ビズ左近山」と協力しながら、住民によるコモンミールのしくみ構築および運営の支援を始めました。

※コモンミール：協働で夕食をつくるしくみ

2009年は、「知ってもらうこと」「体験すること」「しくみを考えること」「仲間を増やすこと」を通じて、参加者が支援やサービスの受け手ではなく当事者として関わることや、暮らしの一環として、多世代が交代で食事をつくり食べるお試しコモンミールやそのしくみをつくっていく活動を行いました。
「知る」説明会には5回40人が参加し、「体験する」お試しコモンミールには7回延べ80人、「しくみを考える」ワークショップには6回延べ30人が参加しました。
2010年3月からは、月4回「サザエさん家のような夕食を作って食べる会」が始まりました。
今後は、参加者を丁寧に増やしながら、運営のしくみにさらなる肉付けをおこない、より快適なものとしていくことが課題であると考えています。2010年度も引き続きCHCによる運営支援を行います。

（プロジェクトマネージャー　宮前眞理子）

中山間地域の暮らしづくり支援～世代を超えて安心して暮らせる村づくり～
（山梨県南都留郡道志村）

近い将来に起こるであろう超高齢社会に向けて、老若男女が安心して住み続けられる村の将来像を村民が共に考え実行するために、山梨県の道志村における現在の暮らしの課題を整理し、村民間で共有をするための話し合いの支援を始めました。

温かい人に囲まれて、美しい風景とさわやかな自然と共にある道志村の暮らし。でも、「仕方ない」という思いや将来の不安もいろいろあります。

歳をとること、子育てのこと、後継ぎのこと、仕事のこと、進学のこと、将来の夢…

村民が家族だけでなくいろいろな人と語り合い、未来への希望をつないでいっています。

2009年度の活動

2009.09.17　第1回ワークショップ（60～80代男性中心）
2009.10.14　第2回ワークショップ（30代子育て中の男女）
2009.10.15　つぼみっこヒアリング（20～30代子育て中の女性）
　　学童保育職員ヒアリング
　　第3回ワークショップ（40～60代女性）
2010.01.14　第4回ワークショップ（ボランティアグループのメンバー）
2010.01.15　デイサービス利用者ヒアリング
2010.03.06　第5回ワークショップ（世代を超えて）

（プロジェクトマネージャー　狩野三枝）

プロジェクトリポート③

ネットワークセミナー

ネットワークセミナーは、各分野で特徴的な取り組みをされている団体・個人の方をゲストスピーカーとしてお招きしディスカッションする中で、多角的な情報発信、相互のネットワークづくりを目的に開催しています。2007年度から開始し、今年度は4回実施しました。

第5回　コレクティブハウス聖蹟はいかにしてできたか
～ 居住者 X 事業主 X NPO ～

2009年8月2日（日）15:00～18:00　於松陰コモンズ　参加者25名

2009年4月にオープンした、コレクティブハウス聖蹟。オープンまでには1年10ヶ月の月日がかかりました。その試行錯誤の過程を、CHC理事でコレクティブハウス聖蹟プロジェクトマネージャーの狩野三枝、事業主の小林攻洋氏、そして居住者のみなさんを交えて、語り合いました。

第6回　コレクティブな国？デンマーク報告
森の幼稚園、自然エネルギー、エコヴィレッジなどを題材に
～ 世界一幸せな国は、なぜ幸せか ～

2009年10月25日（日）15:00～18:00　於松陰コモンズ　参加者47名

2009年9月にCHC理事が訪れた北欧の国々。中でも森の幼稚園やエネルギー自給率200%の島　ロラン島等、大変興味深いデンマーク訪問をもとに開催。ツアーの案内人を務めてくださったニールセン北村朋子氏もお迎えし、そこに潜むコレクティブなエッセンスについて語り合いました。

第7回　スウェーデンのコレクティブハウス事情

2009年12月13日（日）14:30～17:30　於松陰コモンズ　参加者34名

2009年9月にCHC理事が訪れた、元祖コレクティブハウスの国であるスウェーデンでの体験についてご報告。熟年層向けコレクティブハウスであるフェルドクネッペンやソッケンストゥーガンの様子や、その成り立ちの過程、コレクティブハウスを支える社会のしくみ等についてディスカッションしました。

第8回　「学校の鍵は、住民に渡した。」
～ コミュニティ・スクール 秋津小学校の挑戦 ～

2010年3月7日（日）15:00～18:00　於松陰コモンズ　参加者36名

千葉県習志野市にある秋津小学校。この小学校は、地域住民を学校づくりに巻き込むことで劇的に様々な問題を解決していきました。元校長である宮崎稔氏をお迎えし、取り組み事例とそこに起こった変化についてお話頂き、コミュニティの力を引き出す場やしくみについて熱く語り合いました。

（プロジェクトマネージャー　影山知明）

プロジェクト リポート④

松陰コモンズ　2010年3月末に終了

2002年からはじまった松陰コモンズプロジェクトが、2010年3月末日、終了いたしました。古民家を舞台に、新しい暮らし方（コレクティブ居住）とその事業の可能性にチャレンジしたプロジェクトでした。

次なる担い手への橋渡しの会

古民家のたたずまい

世田谷の三軒茶屋から東急世田谷線で3駅、松陰神社の森近くにある150年の歴史を持つ古民家が『松陰コモンズ』の舞台です。『松陰コモンズ』は、CHCと7人の居住者による、あたらしい暮らし方ーコレクティブ居住ーとその事業の可能性にチャレンジしたプロジェクトです。

松陰コモンズの歴史は、150年を超える月日の中では、ほんの一瞬ですが、2002年2月に産声を上げて以来、とても意味深い年月を、この建物と共に送ってきました。

松陰コモンズは、隣の人に声をかけることすら憚られる現在、新しいネットワーク型コミュニティをつくりだすコレクティブハウジングの理念をベースに、まちなかの住宅ストックを活用して、地域の人々にとっても住まい手にとっても可能性を広げる住まい・暮らしを提案する、実践的なチャレンジです。

また、CHCの活動に深いご理解をいただいている家主の鈴木氏の協力のもと、この実験的プロジェクトのしくみを構築してきた居住者の皆さんとCHCが共に作り上げてきた事業でもあります。

2007年4月より本プロジェクトは「松陰コモンズ・セカンド」として再出発しました。新しいメンバーも居住者に加わりました。自分らしく安心できる暮らしの場として、より多くの人が希望を持てるような住まいの選択肢となるよう、さらに仕組みをブラッシュアップし、居住者の皆さんとともに快適な住まいのあり方を追求してきました。

2002年からはじまった松陰コモンズプロジェクトも8年が過ぎ、2010年3月末日をもって終了いたしました。

長い間応援していただいた家主である鈴木氏をはじめ、共にしくみをつくり、コレクティブな暮らしの可能性を広げてくれた居住者の皆さん、松陰コモンズを愛し、お座敷を利用して下さった皆さんや訪ねて下さった皆さん、本当にありがとうございました。

今後は、鈴木氏が旗振り役となり、今までお座敷を利用してくださっていた地元の子育て支援グループが利用される予定です。この場がそのような形で引き継がれていくことは、CHCが活動していく上での励みになっていくことと思います。

（プロジェクトマネージャー 狩野三枝）

松陰コモンズを語る居住者

地域の子育てグループもお座敷を利用

春らんまんの縁側カフェの風景

2009プロジェクト一覧

コレクティブハウス

コレクティブハウス事業運営支援

■コレクティブハウス聖蹟
→プロジェクトリポート①（P5）参照
■スガモフラット
■松陰コモンズ
→プロジェクトリポート④（P9）参照
■かんかん森

事業モデル開発

団地コミュニティ再生支援（横浜市旭区左近山団地）

高齢化、シングル化が進む団地において、地域コミュニティ再生を目指し、団地でコミュニティカフェを運営している「地域ビズ左近山」と協力しながら、住民による協働の食事作り運営の支援を行っています。
→プロジェクトリポート②（P7）参照

中山間地域の暮らしづくり支援（山梨県南都留郡道志村）

人口2,000人の村で、村民が協力して自立的・民主的に生活課題にとりくむような文化としくみづくりを、コレクティブなワークショップの方法論に基づき支援しています。
→プロジェクトリポート②（P7）参照

普及・啓発

講師派遣

各種セミナー等に、CHC理事やコレクティブハウス居住者を講師として派遣し、活動の紹介等を行っています。

【09年度実績】
2回派遣
→詳細はP12を参照

見学会

各コレクティブハウスへの見学会を定期的に開催し、コレクティブハウスおよびコレクティブハウジングの普及・啓発を図っています。

【09年度実績】
聖蹟　6回開催、計102名参加
スガモ　6回開催、計 71名参加
かんかん森　6回開催、計 64名参加

ネットワークセミナー

各分野で特徴的な取り組みをされている団体・個人の方をゲストスピーカーとしてお招きし、ディスカッションする中で、多角的な情報発信、相互のネットワークづくりを目的に開催しています。

【09年度実績】
4回開催、計142名参加
→プロジェクトリポート③（P8）参照

企画・開発

居住希望者支援

相談対応、オリエンテーションを経て、居住希望者の会を編成しています。居住希望者の主導でコレクティブハウスづくりの活動を行っています。

【09年度実績】
説明会（月3回）とハウス訪問（月1回）を定期的に開催

事業主支援

8月から、コレクティブハウジング等の事業を希望する事業主、企画者など向けのオリエンテーション・個別相談等を試行的に行っています。

【09年度実績】
8月から試行的にスタート。
8回開催、計31名参加

会員活動

プラットフォームミーティング

CHCに関わる様々なプロジェクトの情報を共有し、全会員と活動に関わるテーマで議論する場として、隔月で開催しています。

【09年度実績】
5回開催、計84名参加

ＣＨＣへのメッセージ

ＣＨＣを支えてくださっているみなさまから、メッセージをいただきました。

住まいの縁をきっかけに人と人がつながって、互いに少しを持ち寄りあうことでぜんたいの暮らしがより豊かにひろがる。

「コレクティブ」っていうとなんだかムズカシそうだけど、

実はひとりもみんなも心地いいと感じる“センス”のはなし？

コレクティブハウジング社の活動をきっかけに、人々が住まいの“常識”から解放され、後押しされるようにシステムが動きだし、

やがては社会ぜんたいを変えていく原動力になる…、

そんな明日を創っていくＣＨＣに期待しています。

コレクティブハウス聖蹟居住者
山下由佳理さん

サポーターズクラブ会員
羽鳥圭さん

ＣＨＣの広めようとする“コレクティブ”な暮らしには、この先の社会にすごく必要な、でも言葉にするのが難しい何かがあると思っています。

ここにあるのは、暖かいけど閉鎖的な田舎のコミュニティや、オープンで熱い人が集まったNPO・社会起業のコミュニティのような、地縁や血縁、共通の想いやミッションといった何か強いものに結び付けられた人の集まりではないと思います。

無理して関わらなくてもいいけど、関わりたいときには関われる、個の自立と他者への尊敬を前提に、お互いを尊重しつつも無理はしない、緩やかで心地よいつながりなのだと思っています。

この関係性は、現代の都会に住む日本人にフィットした、人と人との関わり方なのではないでしょうか。

この心地よさをこの日本に広めていくために、今後とも無理なくできる範囲で、でも息を長く継続的に、僕もＣＨＣに関わって行ければと思っています。

ＣＨＣをパートナーとして、コレクティブハウス聖蹟をやろうと思った動機の一つは、当時最も共感していたアーバン・ビレッジというまちづくりの考え方がそこにあると感じたからです。

それは、アーバンといえば刺激的、華やか、賑わい、クールな人間関係といったコトバに象徴されるもの、しかし本当に豊かと思えるのは、それとは相矛盾するビレッジなものを合わせ持った生活なのだという考え方です。

とはいえ、それを体現する主人公は居住者です。ある時、居住者組合の中に「大家対応係」ができたと聞いてエッと思ったことがありますが、よく聞いてみると、大家とどうしたら仲良くできるかを考える係だということでした。おかげでとてもすてきな関係が築けている･･･と思っています。

ＣＨＣはパートナーとして申し分なく、もっともっと力をつけて欲しいと願っており、これからも応援していくつもりです。

コレクティブハウス聖蹟事業主
小林攻洋さん

メディアでの紹介

	日付	媒体	内容
新聞	2009.05.7	日経新聞	『世代を超えた共同生活』として、多世代住宅の利点、問題点などを理事の宮前がコメントしました
新聞	2009.06.25	毎日新聞	『核家族　崩れる幻想』として、「アメリカよ　新ニッポン論」の4回目にスガモフラットが新しい家族の形として取り上げられました
雑誌	2009.05.07	婦人公論（中央公論新社）	『ひとりのこれからへ歩き出す私たち』として、「コレクティブハウス聖蹟」の居住者のインタビューが掲載されました
雑誌	2009.11.12	広告（株式会社博報堂）	『10年後、私たちの未来はどうなる？』として、コレクティブハウスの住まい方が、未来の暮らしの可能性として紹介されました
雑誌	2010.02	VSHOOT（第一生命）	様々な世代が交流し合って暮らす住まい方として、スガモフラットが掲載されました
雑誌	2010.03	住宅（社団法人日本住宅協会）	特集『集まって住む暮らし』の中で、さまざまな世代がゆるやかにつながりながら暮らす住まいとしてコレクティブハウスが紹介されました
雑誌	2010.04.10	週刊ダイヤモンド（ダイヤモンド社）	特集『無縁社会』の中で、“暮らし縁”を育む例として、「コレクティブハウス聖蹟」が取り上げられました
Web	2009.05.25	日経ビジネスオンライン	コレクティブハウス聖蹟のオープン1ヶ月の様子が紹介されました

講師派遣

	日付	依頼元	講座・講演名
実績	2009.7	くらし・すまい塾	東京のコレクティブハウス3題―暮らし方と住運営など
実績	2009.10	神奈川県都市整備景観まちづくりグループ	平成21年度邸園（歴史的建造物）保全活用推進員養成講座 歴史的建造物の活用事例～コレクティブハウスとして

ご支援・ご協力いただいた団体（順不同、敬称略）

	団体名	内容
実績	財団法人世田谷トラストまちづくり	「共生のまち」支援制度調査【受託】
実績	一般社団法人 住まい・まちづくり担い手支援機構	団体コミュニティ再生支援 住まい・まちづくり担い手事業（すまい・一般部門）【助成金】

会計報告

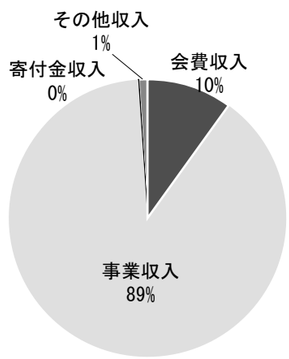
収支計算書
2009年5月1日～2010年4月30日

[税込](単位:円)

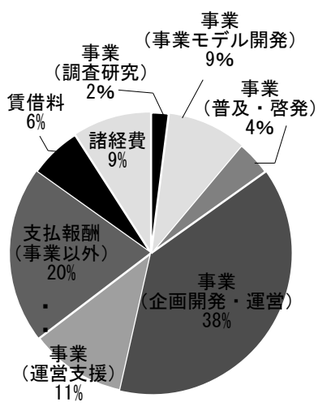
科目		
収入の部		
1. 会費収入		1,212,512
2. 事業収入(*1)		10,865,206
【調査研究】	「地域共生のまち」支援制度調査	705,600
【事業モデル開発】	団地コミュニティ再生支援	1,386,580
	中山間地域の暮らしづくり支援	499,275
【普及啓発】	講師派遣	200,122
	ネットワークセミナー	253,000
	見学会	385,500
【企画開発・運営】	居住希望者支援	372,160
	事業主支援	112,000
	つくりっこの家の家づくり	230,000
	松陰コモンズ	4,413,200
【運営支援】	既存居住者及びハウス支援 巣鴨	917,852
	既存居住者及びハウス支援 聖蹟	1,389,917
【会員活動】		0
3. 寄付金収入		8,000
4. その他収入		122,935
	雑収入(還付金など)	698
	受取利息収入	223
	書籍・DVD	66,750
	その他(原稿料、印税)	55,264
当期収入合計(A)		12,208,653
支出の部		
1. 事業費(*2)		7,228,563
【調査研究】	「地域共生のまち」支援制度調査	244,687
【事業モデル開発】	団地コミュニティ再生支援	608,942
	中山間地域の暮らしづくり支援	435,553
【普及・啓発】	講師派遣	98,971
	ネットワークセミナー	137,914
	見学会	246,950
【企画開発・運営】	居住希望者支援	722,365
	事業主支援	88,519
	つくりっこの家の家づくり	244,502
	松陰コモンズ	3,168,880
【運営支援】	既存居住者及びハウス支援 巣鴨	495,030
	既存居住者及びハウス支援 聖蹟	718,750
【会員活動】		0
【書籍・DVD】		17,500
2. 管理費		3,789,222
	支払報酬	2,191,087
	賃借料	623,852
	諸経費	974,283
当期支出合計(B)		11,017,785
経常収支差額(A)-(B)		1,190,868
その他資金収入の部		
差入敷金収入(C)		500,000
決算修整収入(D)		442,012
その他資金支出の部		
短期借入金返済(E)		504,055
当期収支差額(A)-(B)+(C)-(E)		1,186,813
前期繰越収支差額		△ 407,292
前期決算修整(D)		442,012
次期繰越収支差額		1,221,533

*1 事業収入のうち10%は助成金によるものです
*2 事業にかかる人件費は、各事業費の中に含まれています

収入内訳



支出内訳

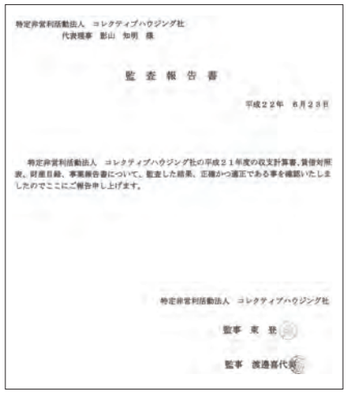


貸借対照表
2010年4月10日現在
(単位:円)

Ⅰ資産の部	
科目	金額
流動資産 計	1,383,147
現金	132,716
普通預金	1,088,817
未収金	161,614
固定資産 計	299,196
什器備品	43,196
出資金	150,000
差入保証金	106,000
資産合計	1,682,343

Ⅱ負債・正味財産の部	
科目	金額
流動負債 計	1,388,111
短期借入金	1,213,741
預り金	174,370
固定負債 計	260,000
長期借入金	260,000
負債合計	1,648,111

Ⅲ正味財産の部	
科目	金額
正味財産	34,232
(うち当期正味財産増加額)	1,117,409
負債・正味財産の部合計	1,682,343



特定非営利活動法人 コレクティブハウジング社
代表理事 影山 知明 様

監 査 報 告 書

平成22年 6月23日

特定非営利活動法人 コレクティブハウジング社の平成21年度の収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書について、監査した結果、正確かつ適正である事を確認いたしましたのでここにご報告申し上げます。

特定非営利活動法人 コレクティブハウジング社

監事 東 登

監事 渡邊喜代[illegible]

会員を募集しています

CHCでは以下の会員を募集しています。

CHCで一緒に活動したい方は… サポーターズクラブ

CHCの活動に共感し、これを支援し、ともにつくるメンバー向けの会員です。

年会費 1口 3,000円(学生の方は、1口1,000円)

何口でも申し受け致します。
CHC年度毎の更新となります。

サポーターズクラブのメンバーになると…

- CHCに関連するイベント情報やニュースをいち早く受け取れます
- 対象となるセミナー等の参加費が会員割引となります
- CHCが行う活動にメンバーとして参加いただけます

お申込み方法
ホームページ内「サポーターズクラブ」ページよりお申込みください
(URL:http://www.chc.or.jp/join/supporters.html)

コレクティブハウスへ住んでみたい方は… 居住希望会員

コレクティブハウスに住みたい、つくりたい、仲間になる人に会いたいといった、コレクティブハウジングの暮らしを実際に自分の住まいとしたい皆さま向けの会員です。

年会費 1口 3,000円(学生の方は、1口1,000円)

何口でも申し受け致します。
CHC年度毎の更新となります。

居住希望会員になると…

- コレクティブハウスに住みたいと考える仲間と出会えます
- 関連する情報をいち早く受け取り、入居にかかる初期段階の支援を受けられます
- 対象となるセミナー等の参加費が会員割引となります

お申込み方法
ホームページ内「住んでみたい」⇒「入会案内」ページよりお申込みください
(URL:http://www.chc.or.jp/orientation/kyojyu.html)

お問合せ先
特定非営利活動法人コレクティブハウジング社 事務局
E-mail:info@chc.or.jp
TEL:03-5281-2310／FAX:03-6805-0245

コレクティブハウジング･･･

それは、豊かな共有空間を持ちコミュニティで暮らす住まい方
新たに人と人がつながり直すことのできる暮らし

それは
一人一人が大切にされる社会

「誰かに会える」
「一人になれる」

安心して孤独でいられる、
あなたの居場所があります。

http://www.chc.or.jp

特定非営利活動法人 コレクティブハウジング社
〒101-0054東京都千代田区神田錦町3-21　ちよだプラットフォームスクウェア1175
TEL 03-5281-2810 / FAX 03-6805-0245
E-mail info@chc.or.jp / URL http://www.chc.or.jp

発行：2010年7月1日/発行人:特定非営利活動法人コレクティブハウジング社
協力：ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京